

災害時口腔ケアの大切さ語る

豊橋市歯科医師会
近藤副会長が講演 さくらピアで減災学習

豊橋市東新町の市障害者福祉会館さくらピアで29日、減災学習が行われた。豊橋市歯科医師会の近藤副会長が「災害と向き合う一人の歯科医として」と題して講演を行った。利用者らが参加し

た。手話通訳がついて講演が行われた。近藤副会長は、自身が東日本大震災の被災地に派遣された際の体験について話し「多数のご遺体の前に、身元確認のため歯の治療跡などを確認する作業を行った。食べるものも乏しく、トイレが大変だった」と振り返り「能登半島地震の時には、豊橋から派遣された歯科衛生士が災害関連死を防ぐための口腔（こうくわん）ケアの方法をお伝えした。入れ歯のケアや口腔ケアができないと誤嚥（ごえん）性肺炎などを招き、災害関連死につながる。心に留めておいて」と呼びかけた。講演後は歯科衛生士による口腔ケアの指導も行われた。（大林恭子）



講演を聞く参加者（さくらピアで）